
アクシデント

坂上雪華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アクシデント

【Nコード】

N78450

【作者名】

坂上雪華

【あらすじ】

たった一つのきっかけで、ちょっとしたことで環境は変化していきます。

それがたとへ小さなことでも・・・

アクシデントというものは人によりその程度は異なると思う。

物を失うアクシデントなら、私は仕方がないとあきらめることが出来る。

物は壊れることもあるから仕方がないと思う。

それがどれだけ大切なものであっても、あきらめることができると思う。

私は少なくともそうだから。

私は結婚している。

子供が二人、そして主人がいる。

子供は上が七歳、下が三歳、まだまだ自分では何も出来ない年齢。もともと収入は多いほうではないけど頑張って働いてくれる主人。私は体が強いほうではなく、子育てと家事で倒れないように必死。そもそも私の体が強く、もっと元気だったら良かったのに。

2

ある日出勤した主人から携帯に連絡が入った。

電車通勤の途中下車して電話をかけてきたようで、周囲はざわついてた。

「足がおかしいみたい、会社に連絡して今日は病院へ行くから一旦帰る」

びっくりしたけれど、どの程度の状態なのかわからない

「帰ってこれるの？」

そうたずねたら、帰ってこれると応えたので家で待っていることにした。

もうすぐ家に着くと主人から連絡が入ったのは長女が登校したすぐあと。

家の前で次女と待つっているとタクシーが停車して主人が下車してきた。

足元がおぼつかないようだけれど何とか歩けるみたい。

そのまま家に入って健康保険証を手にとすると主人は総合病院へ行く準備をする。

心配だったので同行しようかと言ったけれど主人は首を振った

長女が学校から帰る前に家に帰れるかわからないから家にいてほしいということ。

私は心配だったけれど、長女が帰ってきて家に誰もいなかったら大変だし

まだ小学生一年生の長女に一人で待たせるなんて怖くて出来なかったから

主人には一人でタクシーで行ってもらうしかなかったんだけど。

その日には病名は判明しなかったと主人から電話が入った。

検査をしないとわからないということで、後日からということに。

その日はそのままタクシーに乗って主人は帰ってきた。

足に力が入りにくいという症状は気持ち悪いけれど、主人も元気だったし

そんなに深刻だとは思ってなかったし、すぐに良くなるってそう思ってた。

いつもどうり子供たちを起こして家事をしながらの朝を迎えて

主人はその日から検査で病院へ行くので、会社に出勤するより少し遅く家にいた。

朝から少しだけれど娘たちの相手をしている時間があつたみたいで長女が学校へ行く時間になるまで娘たちを見てもらってた。

足は良くないみたいだったけど、椅子に座って笑顔だったし、そのまま家事を続けた

主人が病院へ行く時間になる前に家事をすませて、主人に朝ごはん

を食べてもらった。

時間が来て次女をわたすと、主人は検査のため病院へ行った。

頭部CT、脊椎MRI、レントゲン・・・検査は毎日じゃなかったけれど、何回も続いた。

けれど病名は出ないまま日数ばかり過ぎていく。

出費ばかりかかっていつこうに主人の状態は良くならない・・・どころか

主人の足腰は日々弱って、初日に比べると本当につらそうになってきた。

出社出来るのがいつになるかわからないということで会社はしばらく休むことに。

有給休暇を使つてみたい。

一月位なら休んでも有給休暇でまかなえるから大丈夫だと主人は言つてた。

私もさすがに一月も治るのにかからないと思つたけど、どこかひつかかつてた。

ものすごくいやな予感がしたのはこのときだつたと思う。

主人がだんだんともう病院にはもう行かないと言いだした。

検査は一通り終わって結果も病名もわからなかったままだったし検査に何万円も使つたのに

まったく何もわからないなんて我慢できないって言つて怒つてた。

あせつてたんだと思うけどそのあとも数回説得してそのまま通院してもらつた。

私は多少借金してでも病気を治してほしかったからんだけどそのあととうとう

今度は大学病院の精密検査をしていく方向にするしかないと言われ主人は

「これ以上無駄に出せるお金なんてない！」

と悲しんで怒って悔しがって・・・絶望してた。

私が直接病院に電話して聞いたら少なくとも体に異常はないことが検査ではわかったみたい。

物理的に異常は無いということが検査内容の範囲ではわかったってこと。

事実足腰が弱ってまともに歩くことさえ出来ない主人。

手で壁を伝い歩きしてた状態から、手足ではって家の中を移動するようになった。

主人は病院には行かないと言ったけど、あくまでもその方面の病院にはということ

主人も私もあれこれ調べて行く病院の種類を変えるしかないということとで相談した。

PCや電話で今回の検査でわからないような症状を探しているいろいろ調べて・・・

その間にすでに簡単に一月は過ぎて・・・

主人の会社では傷病手当というものの手続きをしてもらった。

長期休暇の場合で有給がなくなっても、給料の六割がもらえるというもの

ただ始めての手続きということで、実際に手当てをもらえるまで三ヶ月以上かかるということ

私は主人と相談して、生活費と通院代を工面するために借金をすることにした。

主人の両親が数万円援助してくれたけれどそれが精一杯だった。

年金暮らしだから当然といえば当然で、それでもありがたい。私の両親はお父さんは働いているけれど、転職してそのときの借金があるから月々の返済で精一杯

貯金があるわけじゃないのはうちとおんなじで借りることが出来なかった。

仕方なくこの時から生活費を銀行で借りることになった。

主人の病氣改善に唯一希望が持てるようになったのは、主人が発病して二ヶ月も経ってた。

その間、精神や神経や心療の専門の病院へ数箇所通ってもなんの結果も得られなかったんだけど

主人は足腰の自由が利かないだけでなく足腰の痛みが出だしたのもあつて寝るのもつらいつてなつて

駄目もとで私がついていた整骨院へ行ったのがきっかけ。

そこで治療を受けた日、歩くことはすぐには出来なかったけど主人は一人で立ち上げられるようになった。

ちよつと家から遠い整骨院だから、土曜日二人の娘も連れて私の運転で通院するしかないけれど

立ち上げられるようになってからは自己リハビリの方法とかをその院長と電話でやり取りしながら

徐々に主人の状態は良くなっていつて・・・ゆつくりと歩けるようになるまでになったの。

主人の病氣が改善してきて、なんとか希望が持てるようになった時今度は生活費が底をつきかけて・・・傷病手当はまだ・・・そんな状態

でも子供に食べさせないわけにも行かないし公共料金や家賃も払わなくてはいけないし

ようやく主人が改善してきているのにこのままでは生活も出来ない通院も出来ない。

週に一回とはいっても通院費はタダじゃないし交通費もガソリン代もかかるし。

院長先生に電話して自己リハビリを強化する方向で主人は頑張るしかなかった。

来月末には傷病手当が入る。

そんな時期・・・主人は何とか歩けるようになってきた。喜ぶべきだと思うし、来月には通勤できそうなくらいにまでなってきた。

結局原因はわからないけど、リハビリで改善はしてきてるといった状態。

でもこの来月末までの生活費は・・・もうなかった。

たった一月分のお金がもう工面できない状態。

主人の前年度年収の額ではもう借りられる分はもう超えていたみたいで

銀行からの借金は出来なくなってた。

来月末に入ってくる傷病手当では前回までの借金の返済分もくるようになる。

今回また別のところで借金したとして、主人が働けるようになった頃もう返済と光熱費の支払いで生活費は残らないようになってると思う。

主人が来月から出社できるというのも可能性でしかないし・・・

傷病手当では生活なんて通常でも出来ない額。

それでも今を乗り切るには借金するしかなかった。

もともと裕福じゃないけど幸せだった。

私も家族もリサイクルで衣服を買ってたけど、それも楽しかったし幸せだった。

住居は小さくても収入が少なくても生活はしていけたし、小さい車も維持してた。

長女は小学校に普通に通えたし、来年からの次女の入園も決まってる。いろいろ用意してた。

でも・・・この先どうなるんだろう。

たった数ヶ月のちよつとしたアクシデントでそんなちっぽけな生活もできなくなるなんて

いままで考えたことなかった。

私が特別だっと思って思わないし世の中にはもっと苦しい思いをしている人も多いと思う。

主人が頑張って仕事をして収入が増えるようなシステムの会社じゃない。

私は体が強くないけど働くためには仕事を探さなければいけない。長女は昼過ぎには帰ってくるし次女は幼稚園に行っても昼には帰ってくるから

次女を保育所に預けるには仕事を探して証明書が必要・・・

仕事が決まっても保育所はすぐには開きがないから保育所が決まるまでその間出社出来ないけど

それを待つてくれるような職場があれば・・・

いろいろ考えてる私がいる。

主人も現状をわかってるから一番心苦しいと思う。

せめることは出来るけどせめても何も変わらない。

もつとはやく整骨院に行つてたら・・・たら、ればでこの先は変わらない。

でもくじけたら終わりだと思う。可能性があるなら行動するしかないと思う。

家族の未来・・・子供の未来は私と主人で守らなければいけないから・・・

これから今まで異常に歯を食いしばって頑張るしかないし、それしかないと思う。

どうなるかなんてわからないけど・・・頑張ろうって自分に言い聞かせてる。

何時か生活が安定してこのことが笑い話に出来るように乗り越える力がほしい。

今までの幸せな生活を取り戻せるように・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7845o/>

アクセシビリティ

2010年11月8日04時27分発行